



# カレブ通信 第二号

2011年2月15日

## 内容

- 各地の報告と祈りの課題
- メンバー報告  
星野隆三さんの「男性会」
- カレブ・ストーリー  
酒井盛雄



## 各地のカレブの会の報告と案内

### 東京カレブの会（御茶ノ水 OCC）

1月18日に今年最初のカレブの会が開かれ、今年の抱負について分かち合いがされました。クリスチャン新聞記者の中田さんから「カレブの会」の働きは今の時代特に大切であると強調され、今年、カレブの会メンバーの証の連続掲載の案が提案されました。2月18日（金）新メンバーの杉田勉さんの夢の分かち合い。西山さんの「こんなときバイブル」の報告、畠山さんのみことばの証など。3月は25日（金）「田舎で神に仕えよう！」「中途退職者の夢」の二つの分かち合い。今月中に詳しい案内を送ります。

### 宇都宮カレブの会（宇都宮）

新年の抱負の分かち合いとなり、それぞれが抱えている課題や夢を理解しあう時となりました。また、孤族の時代の人生後半の生き方について語り合い、それぞれが置かれている場で傾聴の奉仕ができるよう次回3月5日に学び合うことになりました。

### 宇大カレブの会（佐野）

50歳で退職、第二の人生をスタートする島田さんの証に励まされた後、「福音のためのインサイダー」の学びと分かち合い。今回は4月30日。

## 祈りの課題

### ★横浜カレブの会のために

畠山義則さんからのリクエスト

#### 1. 横浜での計画概要

（1）会場（候補）

戸塚、本郷台、港南中央（市営地下鉄）

（2）開催時期：2ヶ月に1回（土曜午後）

（3）開始時期：今年春予定

#### 2. 祈りの課題

（1）私と共に祈り、協力して下さる方が与えられますように。（2）この会に興味を示し、参加される方がおこされますように。（3）他のカレブの会とも連携し、はげましあえるように。

この会に対するお問い合わせは、畠山さんへ：

メール [y-hatak@c3-net.ne.jp](mailto:y-hatak@c3-net.ne.jp)

### ★仙台カレブの会のために

小川徹さんから、各地のカレブの会を参考に

9月スタートをめざし準備しているとのこと。主がすべてを整えてくださるようお祈りください。

小川さんへのお問い合わせ：[ogwtoru@gmail.com](mailto:ogwtoru@gmail.com)



星野ご夫妻

## ライフデザイン：

### 男性会の報告

星野 隆三

《ライフデザイン》は、私のライフワークです。私のブログ

(<http://www.lifepeace365.blogspot.com/>)もこれがテーマになっています。

ライフデザインとは、人生のさまざまな局面で直面する課題に、事前に取り組み、問題が起こらない(起こってもそれが成長の糧となるような)人生を歩むことを目的としています。

そのテキストは、聖書です。聖書には、人生のすべての事柄が出ているからです。

例えば、結婚するカップルがいたら、結婚前に結婚生活の心得を学んでおく、あるいは子育てについて聖書から学んでおくことです。人生の問題が起きたとき、それに対処する専門家はたくさんいますが、事前に指導してくれる専門家は少ないものです。

ライフデザインは人生の活動全般の多様な

領域に関わるのです。

さて、「男性会」は、2006年9月から始まりましたので、「カレブの会」より3ヶ月ほど前にスタートしたことになります。毎月1回、はじめは日曜日の夜、現在は金曜日の夜に開催していますが、6月からは土曜日の夜になります。会場は、NPOの会議室を4時間¥1000で借りています。橋本駅前のビルの中にあるので、集うのにたいへん便利です。

「ライフデザイン・男性会」をはじめた理由ですが、最初のきっかけは、妻の「男性がしっかりしなければ・・・」の一言でした。確かに、臨床心理学者のBiddulph氏が言っているように、「ほとんどの男性は、自分の人生を生きていない」のです。男性は、「孤独」「脅迫的な競争」「感情面での臆病さ」に苦しめられています。そこで、男性を解放しよう！という運動が世界で広がっていると聞いています。自由で安全な場が与えられると、男性は、自分を解放し本音で私的な物語を語りはじめるといいます。一方、男性に関する情報を調べると・・・女性より短命。人間関係が苦手。学校で問題を起こす子供の80～90%が男子。刑務所の収監者の90%以上が男性。日本の自殺者の70%が男性。このように男性に関して、有利なことを見いだすのは困難です。これだけ男性の人生はたいへんなので、「男性会」をはじめた訳です。

もう4年も続いている男性会ですが、まず参加者は(名簿上24名いますが)、常時8名前後の人たちが集まります。このくらいが、ちょうど話し合いには適切な人数です。

私の意図は、もちろん宣教ですが、それを直接的な目的にしています。まずは、参加した男性が心を開くようにすることです。そして、安心して自分を出せる場を提供することです。主の導きと感謝していますが、参加者の半数はクリスチャンなので、結果としてキリスト信仰を証することになります。事実、一人の方が聖書に関心を持たれ、私と毎月2回の聖書学び会をするようになりました。

参加者は、私の知り合いがほとんどです。私と同じコミュニティから2人来ますが、往復の車の中でも良い話し合いができています。はじめの頃は、私の教え子や若いサラリーマンの参加者が多かったのですが、彼らは忙しいのか次第に参加しなくなり、現在は50歳代から70歳代が集います。「カレブの会」と不思議に構成が似ています。毎回のテーマですが、順番で話題を提供します。本人が関心あるテーマを自由に選び、1時間ほど話してから、自由討議となります。これまでのテーマをご紹介しますと、「生と死について考える」「自分の体験から隣人を愛するとはどういうことか」「聖書から学ぶリーダーシップ」「新島襄の生涯」「私の夢・ビジョン」「夫と妻の良い関係」「神と人との良い関係」「自然科学者としてキリスト者として」「国際ハウスチャーチ・カンファランスに参加して」「日本の自動車産業の発展史」「リサイクルとエコ」「私たちの食と農業について」「陶芸教室と地域活動」「これからの人生をどう過ごしていくか」「ドイツに出張した報告」「宗教改革とは」「あなたの夢の見つけ方」「後期高齢者制度について」「老後の処方箋」「老いと死」「老いる準

備」「介護問題について」「老いと時間との関わりについて」「我が父を語る」「我が母を語る」等々。

テーマから、参加者の経歴や関心ごとがお分かりになることでしょう。参加者皆が、毎月の集会を楽しみに集っています。特に、この2月に開催したテーマ「我が母を語る」では、男たちが母親(参加者の内、母親が生存している方はひとりだけでしたが)のことを熱く語り合い、涙する者が数人いてびっくりしました。男性は、母親のこととなるとなぜか燃えますね！

「男性会」がはじまって4年経ち、私達の中に不思議な絆が生まれてきたことを感じる、今日この頃です。



「男性会のみなさん」

星野さんへの問い合わせ：

[ryuzohoshino@gmail.com](mailto:ryuzohoshino@gmail.com)

## ● 「カレブ・ストーリー」

### 酒井盛雄

#### 「現役からお手伝い役へ」

PBA40 年で培った技術で裏方サポーへ

ラジオの「世の光」、テレビ「ライフ・ライン」など、放送伝道番組の制作、提供する（財）太平洋放送協会（PBA）のディレクターとして 40 年近く、映像の撮影、編集、ステージの音響などを手掛けてきた酒井盛雄さん（64）＝同盟基督、登戸教会員＝は、定年後の継続雇用中、病気にかかったことをきっかけにフリーとなり、現在は PBA で培ってきた技術を生かし、伝道コンサート、特別集会、セミナーなどの裏方の仕事をしている。

酒井さんは 4 年前に PBA を定年。引き続き「ライフ・ライン」のディレクターの仕事をしていましたが、その 2 年後、身体がいうことをきかなくなり、半年間休職した。「撮影中、手が震えたり、体重が減ったりし、朝起きられなくなりました。病名はうつで、身体の疲れから来るものでした。医者は『今までのような忙しい行き方はダメ。行き方を変えた方がいい』と言ってくれたのです」

それまで、「週に一回は徹夜をしていた」という酒井さん。だが、年齢と共に無理がきかなくなっていた。休職中、その後の人生をどうするかについていろいろ考えた。「大丈夫、何とかなる」と言ってくれる妻の励ましや教会の牧師や信徒の祈りが支えになったと共に、定年後の人生設計について学び合う「カレブの会」に定年前から参加し、メンバーの話を聞いていたことが大



きかった酒井さんは言う。「会に誘ってくれた星野隆三さんはじめメンバーから、定年後、どんな生き方をすればいいのか、その体験談が非常に参考になりました。星野さんからは『全部ゼロにして、もう一回人生を考えたほうがいい』とアドバイスを受けました」

病気から回復後、酒井さんは第一線から退くことを決意。再就職も考えたが、フリーとなって、自分のペースで様々な伝道活動のお手伝いをすることに決めました。「後半戦は、PBA で培った音響、映像、編集などの技術を使い、様々な伝道イベントの裏方としてアシストしたいと考えたのです」

現在は、「今の自分に見合った仕事をすればいい」と、年金と少しの仕事で生活するようにしている。そのおかげで「妻との時間が増えた」とも言う。「09 年春に一緒にお花見に行き、妻と一緒にのんびりお弁当を食べたり、お茶を飲みました。妻はこう言いました。『やっと、人並みの生活ができるようになったのね』と。現役の頃は、そんな余裕はありませんでしたから」

半面、フリーになったとは言え、酒井さんのキャリアを買う人は多い。多方面から「酒井さん、手伝ってほしい」と依頼が来て、結構忙しいとも言う。

<この文はクリスチャン新聞から転載したものです>

酒井さんへの問い合わせ：[morio@m2yr.com](mailto:morio@m2yr.com)